

# みんなの議会

2023年5月  
第93号



## 空飛ぶお菓子!

### 第1回定例会・臨時会 2~3↑

- 令和4年度一般会計補正予算について
- 傍聴席の声、賛否の分かれた議案他

### 議会の動き 8~9↑

- 各常任委員会の所管事務調査報告
- 議会基本条例制定・議会モニター会議

### 一般質問 4~7↑



高田議員がそらち自然学校への支援について質問した他、7名の議員が一般質問を行いました。

### 予算特別委員会 10~11↑

- 令和5年度予算の総括質疑
- 予算審議結果・意見書

沼田町議会QRコード



## お礼の挨拶

沼田町議会 議長 小峯 聡

4年間皆様には大変お世話になりました。

議長に就任して、町民の皆様にご指導ご協力をいただきながら、議長としての責を果たしてまいりました。その間役場職員をはじめ、大勢の関係者の皆様には大変お世話になりありがとうございました。この4年間の初めの一年もたたないうちに新型コロナウイルス感染症が爆発的に拡大して行動が制限され、右往左往してなかなか思うようなことができない時期もあり苦労しましたが、それでも少しでも前に進めるようにしてまいりました。

議会での今期の中心的な目標は議会改革であ

りました。議会改革特別委員会を立ち上げ、議員全員で議論を重ね改革すべき20項目を掲げ改革してまいりました。議員皆さんの努力に感謝申し上げます。まだまだ手掛けたばかりですので、それが定着するまでは時間がかかるものと思いますが、それは次期の議会に委ねたいと思います。

沼田町の現在の財政状況は健全ですが、これからは建築しなければならない施設や修理が必要な施設などがあり、チェック機関の議会の重要性が増してきます。

町民が安心して安全に暮らせる町としてさらに発展することをご祈念申し上げお礼のご挨拶といたします。



# 令和5年 第1回 定例会

3月9日～15日

今年の第1回定例会は、は統一地方選挙を控え、骨格予算について町長から説明があり、その後8名の議員が一般質問を行いました。

### 上程された主な議案

◎ JR留萌本線代替輸送確保・跡地整備等推進基金  
条例

留萌本線の廃止に伴いJR北海道より受け取る補助金を積み立てておくための基金です。

### 令和4年度補正予算

【一般会計】事業費確定による予算の減額が中心です。

### 〈減額の主な内容〉

・住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金 548万円減

・後期高齢者医療費 753万円減

・感染症予防対策費 939万円減

### 〈増額の主な内容〉

・特別養護老人ホーム特別会計繰出金 1209万円増

・町道除雪委託料 2000万円増

・観光振興費 42万円増

(町に寄贈されるモデルカーを搬送するため)



高橋悟氏(沼田町出身)より寄贈される貴重なモデルカーコレクションの一部



## 定例会の様子



YouTube視聴者は  
延べ431名でした

YouTube  
登録チャンネル  
北海道沼田町議会

## 今回の傍聴者は7名です

### 傍聴者の声

3年後 JR 留萌本線が廃止になります。全体的なダイヤ編成と料金設定への支援を宜しくお願いします。

(70代男性)

皆様の傍聴をお待ちしています



## 賛否が分かれた議案

### 令和5年 第1回定例会

令和4年度補正予算

(除雪費)

反対討論

鵜野議員

特定の除雪代だけ補正予算を組むことは公平性に欠ける、当初予算の倍の金額を補正計上することも疑問であり、入札の手続きに問題はなかったのか。

賛成討論

高田議員

除雪補正に関しては不信感があるが、年度末において、補正予算を否決しづらい。今後、積算根拠を明確にして公平に対応して欲しい。

副町長

本年は降雪が多く、業者に作業日報を提出してもらい、作業実態に合わせた補正計上をさせていただいた。仕様書を途中で見直した経緯もあったため、今後は適切な契約が行われるように改善を図りたい。

### 除雪費の採決結果

賛成  
6



反対  
3



### 令和5年 第2回臨時会

令和5年3月29日

令和4年度補正予算

固定資産税減免措置

706万円の減免

### 表紙の写真

輝け雪のまちフェスタでのお菓子まきの様子。ファイターズのキャラクターBBも参加しました。



## 町長・教育長への一般質問

### 問 協力隊への支援業務委託料の中身は

答 地域おこし活動として自然学校への業務委託



高田 勲  
議員

新しくそらち自然学校費として管理すべき。人件費を協力隊費の中を含めた理由は。

### 問

地域おこし協力隊が委託先の会社に就職した場合、協力隊員ではなくなると思うが、協力隊の身分のまま委託先の会社に派遣することは考えなかったのか。

協力隊への支援業務委託料1440万円の中身と積算の根拠は。

企業版ふるさと納税で自然学校に寄せられた寄付を有効に使うべきだと思うが、



協力隊は事業者が任用し町が地域おこし活動のコーディネーターを委託する形式も想定されており、自然学校の運営

### 高田議員のそのほかの質問

問 「加工トマト生産日本」を目指して

町長答 指定管理者と十分な協議を行う

に係る業務を委託するものです。

協力隊員として町が委嘱し委託事業者との契約のなかで、協力隊に準じた処遇としていきます。制度において隊員3名分の1440万円を上限に特別交付税措置され、町の会計年度任用職員の金額を基準に設定しています。

令和4年度は10件の350万円が事業に対する寄付でしたが、企業版ふるさと

### 問 ふるさと納税の充実策は

答 リピーター対策を検討する



上野 敏夫  
議員

### 問

ふるさと納税の減少は町の事業に大きな影響を及ぼす。令和3年度、4年度でも目標の3億円には至っていない。なぜこのような結果になったのか認識を聞きたい。

納税は受納した年度に充当すること、協力隊支援業務委託料は特別交付税で措置されますので、一括で一般財源として予算計上していきます。

自然学校の運営が軌道に乗るまで赤字も想定されませんが、人材育成や地域貢献など町への波及効果も勘案し支援したい。また、本格的な実践を通じて稼ぐ力を共に作り上げていきます。

また、魅力ある返礼品がないように思う。返礼品開発をするべきではないか。予算では3億円だが、もっと大きな目標にしても良いのではないか。



ふるさと納税は産業の育成振興、町づくり事業の財源など地域の活性化を促進し、元気にする源になっています。しかし、あくまでも寄付金

なので安定財源ではないと思っています。

ふるさと納税対策室を中心に納税拡大に向けて積極的に取り組み、町内の事業者と連携して返礼品の開発も進めたい。

2月末現在の寄付受納状況は2億6430万円と回復の兆しもあり、全国から沼田町を応援してくれている寄付者を取りこぼすことのないようにリピーター対策も検討していきます。





**問** 資格取得に対する農業支援対策を  
**答** 農業総合対策事業の中で考える必要がある



誉 地 議 員

**問** 農業経営において発展的な事業展開を望むためには、農業者の資格取得状況によって農作業の体系が大きく変わっていくため、現在の農業者は資格取得に多額のコストがかかる。

以前は高校卒業時にマニュアル車の普通免許を取得すれば2トントラックの運転ができていたものが、平成29年の法改正により運転できなくなった。Uターンで新規就農しても免許を取り直さなければならぬ。免許取得支援制度の要件に町の自動車学校を指定すれば、経営改善にもプラスになると思うがどうか。スマート農業でドローンが注目され、ここ数年でラジコンヘリから急速に置き

換わっている。操縦資格について、ドローンは機体ごとに必要になり、機体更新時にも新たに費用がかかる。資格取得支援のメニューを検討することは、沼田農業の底上げにつながると考えるがどうか。



中 型 や 大 型 の 運 転 免 許 受 験 資 格 を 満 た さ ない 人 は、一 度 準 中 型 を 取 得 し て か ら に な る た め、営 農 に 必 要 な 免 許 取 得 に 多 額 の 費 用 が 必 要 に な る こ と は 認 識 し て い ます。



ドローンの資格取得にも多額の費用が必要で、免許の有効期間も2から3年となっているようです。自動車及びドローンの資

格取得支援は、農業総合対策事業などで考える必要がありますが、予算に関することは回答を控えます。

**問** 10年後の沼田農業をどう考えるか

**町長答** 有機と輸出、循環型農業がキーワード  
**農業委員会会長** 労働環境改善を進めるべき



之 範 野 議 員

**問** 10年先の沼田農業を考えると、後継者が減り、農地の流動化が加速することも考えられる。

農業委員会会長に今後10年間を見通した時、農地流動化がスムーズに行えるのか。今後の後継者、配偶者対策の内容について聞きたい。

和4年度は1年限りとしたのはなぜか聞きたい。最後に今後10年の沼田農業をどのように描いているのか、考えを聞きたい。



こ れ ま で 平 成 13 年 か ら 農 地 流 動 化 対 策 に 取 り 組 ん で き た 結 果、現 在 遊 休 農 地 は ない と 認 識 し て い ます。

配偶者対策は、農業者限定のものや町内青年全体を対象としたグループ婚活が成果を上げています。農地流動化対策は同じ内容で4年継続しました。これは自分の任期と対応するように考えたものです。100年後も持続可能な沼田農業確立のためには、

配偶者及び後継者のいない経営主の農家戸数

	妹背牛	秩父別	沼田
総耕作農家数	180	136	150
配偶者不在経営主	37	24	60
後継者不在経営主	159	112	125

J A 北 い ぶ き 営 農 計 画 書 よ り

有機と輸出、循環型農業がキーワードと捉えます。農業委員会会長 10年後には1000ha規模の農地流動化が想定されます。現農家戸数の3%が毎年就農しないと農地がうまく回らないとされていますが、過去10年間の沼田町の農業後継者充足率は61.6%であり、北海道全体で見ても高い方です。今後は経営体をしつかりと育て、スマート農業や労働時間改善を関係機関と協力して進めるべきです。

**問 高速バスを沼田町民のために活かせ**

**答** まずは既存路線の維持と充実を検討したい



長野 時敏  
議員

土日試験運行を実施してはどうか。

2つ目に、新しい路線、沼田〜滝川間の新ダイヤを作り、沼田IC乗降による通学の足を充実させてはどうか。

3つ目に、これらの相乗効果により沼田乗降バス停と駐車場を含む周辺整備を進めてはどうか。

**問** JR留萌本線廃線が現実のものとなり、代替交通検討の段階に入った。中央バスなどの関係機関との調整に先手を打つべきだ。町長の考えを聞きたい。

1つ目に、廃線を見ずえて沼田インターチェンジ（以下IC）の乗降を望む町民の声がある。既存の高規格道路の沼田ICを経由して、



既存路線にアクセスできるように、バス会社と十分に調整していく予定です。札幌方面とのアクセスについては、高規格幹線道路深川留萌自動車道路上を運行する高速バスに沼田から乗り降りる可能にする必要な設備の整備に向けて引き続き検討したい。

国・道の機関との話し合いでは、既存の沼田インターチェンジを活用する場合であっても、数億円の費用は全て町単独にて整備する



必要性があり、慎重に検討すべき事項と捉えています。また新たな路線を開設することは非常に難易度が高く、まず優先すべきは既存

路線を維持充実して、更に利用促進をしていくことが公共交通を守る、最大の防衛であると考えます。

**問 子育て支援の仕上げは学校給食無償化で**  
**答** 子育て支援策全体を見通して今後検討する



篠原 暁  
議員

商品券の販売が有効であり、優先的に考えるということから給食の補助は行わないとされた。

少子化対策で安心して子どもを産み育てられる経済環境を整えることが、重要だと思ふ。現在学校給食は無償化する自治体は全国で254まで広がっている。

「子育て支援日本一」を沼田町でも実現しようと考えれば、これまで医療費や保育料など、子育て環境を充実させてきた最後の総仕上げとして、学校給食

費を無料にしてはと思うが、町長の考えを聞きたい。



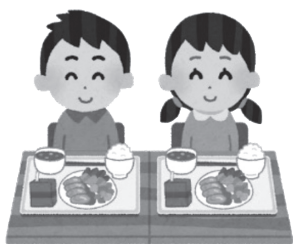
北空知圏の学校給食組合では令和5年度の給食費は値上げをせず、前年度の繰越金と基金で物価高騰に対応することを考えております。

給食費を納められない厳しい環境にある子どもは守らなければならないと思います。一方で衣食住の第一義的責任は親が子どもに対応するべきとの考え方もあります。

コロナ禍での物価高騰への影響は全世界に影響が及んでいる状況であり、子育て対策支援の施策として学校給食費の支援の在り方も含めて、子育て支援策全体を見通して今後検討したいと思ひます。

**問**

以前、国の臨時交付金を給食費の補助に使うことは考えないのかという趣旨で質問をしたが、全町民への1万円分の商品券の配布事業とプレミアム付



**篠原議員その他の質問**

**問** インボイス制度の開始にどう対応するか

**答** 事業者登録などに対応するよう準備をしている





早朝からJRで通学する高校生たち

**問** 子育て支援は働き方の多様化に追いついているか  
**町長答** 子育てしやすい環境づくりが必要  
**教育長答** 家庭の通学費負担について調査する



久保 元宏  
議員

**問** 現在沼田の高校生は一番遠くから時間も経費もかけて通学している。今後JR留萌線が廃止になれば、通学コストはさらに倍増し、教育における格差が拡大する。  
 そこで、教育長に児童生

徒が高校選択をする時点での通学コストに関する調査を行ったことがあるのか聞きたい。

多様な保育ニーズに対応する国の支援策に対し、沼田町はほぼ実施済みで、育児支援の先進地であると感じる。

しかし、日々変化する働き方への対応が必要であり、町長には予算の議論と云うよりも沼田町独自のインパクトのある政策は何か。



通学に必要な経済的負担の増加に

より、本来進学したい高校を諦めることはあってはならないことです。教育格差が生じないよう、引き続き通学費補助制度の創設を国や道に要望しています。

町内に住むすべての子育て世帯の状況を見据えた中で、子育てニーズは多様化しており、適切な支援に取

り組む必要がありますが、金銭的支援だけではなく本当の意味で子育てしやすい環境づくりが必要だと思えます。

教育長

従来高校別に通学コストを詳細に調査したことはありませんが、今後調査をして提示したいと思えます。

**問** 電気料金と農業資材高騰対策を  
**答** 町民の思いを実現できるよう努力したい



大沼 恒雄  
議員

**問** 電気料金の高騰に対して、電力会社に政府による激変緩和対策補助金が出されているが、補助金では間に合わないとして北電はさらなる値上げを検討している。



どう

济と、町民生活に与える影響について今後どのような対策を取るのか、町民目線に立つて進んでもらえるのか聞きたい。

策を取るかは自治体で支えられるレベルを超えています。少なくとも国が対応すべき問題であり、地区選出の国会議員には直接要望をしました。

農業政策では、肥料等の高騰対策を国や道も講



高騰している農業用資材

じていますが、100%ではない状況も考えられる追加の支援策を要請していくことも必要だと思います。  
 町民の皆さんの思いを実現できるよう、町民目線で努力していきたいと思っております。

農家の収入減への対策は明言はできませんが、持続可能な農業を作り上げていくための様々な検討が必要だと思えます。

# 常任委員会 所管事務調査報告

## 総務民教建設常任委員会 「地球環境対策について」

本委員会では、中間報告でSDGsの推進、再生可能エネルギーとしての利雪、ゼロカーボンシティ宣言などを提案した。今後も新しい生活様式の推進や公共施設でのCO<sub>2</sub>排出量を見える化し、町民参加型で環境対策を考える仕組みづくりをすすめていく必要がある。

### (1) エシカルなライフスタイルの推進

エシカルアクションは私たちの良心に基づいて「環境」「人・社会」「地域」を配慮した考えや行動のことを指し、社会的課題や環境問題に向き合う姿勢を明確にさせることができる。

内陸で捨てられたプラスチックはやがてマイクロプラスチックに変化し、海洋を汚染する原因になる。これからはマイバッグ・マイボトルなどの使用を促し、使い捨てプラスチックの少ない社会

を目指していくべき。町民や団体・事業者と協働して、消費活動などにエシカルなライフスタイルの具現化を望む。

### (2) 生物多様性の保全

沼田町の生態系は、自然と里山と生活圏の微妙なバランスがあって共存している。環境負荷の低減に向けた取り組みは持続可能な農業、まちづくりに直結する。豊かな生活を送る上で普段利用している商品が、どこでどのように作られ手元に届いたのかに関心を持ち、自然と人間の共生に向けた取り組みを考えることが重要となる。

沼田町の「そらち自然学校」には生物多様性を利用しながら、内陸保護に資する取り組みを望む。



## 産業福祉常任委員会 「社会福祉協議会と連携した町づくり」

沼田町の在宅介護事業は、デイサービスセンターをはじめ訪問介護などを社会福祉協議会が担ってきているが、介護報酬の改正などにより社会福祉協議会の収支はマイナスが続き、令和2年度からは町から補助金を支出している。

社会福祉協議会は、いつまでも幸せに暮らせるまちづくりを基本理念に、高齢期を健康で安心して過ごせる取り組みを行っており、利用者に親身になって対応する取り組みは町民にとって欠かせない存在となっている。

本委員会では、高齢者はもとより多世代の町民のため、社会福祉協議会が町や団体と連携を強化し、地域をつなぐことが生き生きと暮らせるまちづくりに寄与するものとする。

### (1) 体制の強靱化

社会福祉協議会は健全運営に努める必要があるが、自主財源だけで事業を運営することは現状で

は困難である。今後、職員体制も課題となるため、人材の確保と育成の支援が重要と考える。

### (2) 介護予防へのより幅広い町民の参加

沼田町では、各種介護予防事業に積極的に取り組んでいるが、健康で元気な高齢期の方にも健康寿命への啓蒙活動や事業への参加を促すなど、社会福祉協議会と一体となった取り組みが必要である。

### (3) ボランティアセンターの充実

社会福祉協議会にボランティアセンターが設置されているが、十分な機能を果たしているとは言えず、町民の意識と充足感を高めていく必要がある。

また、沼田町のボランティアに対する窓口を一元化し、町民や学校、企業などと連携した参加型の町づくりへの取り組みが必要と考える。



議会改革特別委員会

# 町民とつながる議会を目指して



## 最終報告

沼田町議会では、「町民とつながる議会」を活動理念とし、積極的な情報の公開と共有、議会改革の促進と活発な討議により議会の機能の強化を図ってきました。町民の議会への関心をより一層高め、議員のなり手不足の解消と多様な人材を確保することが、今後の議会を充実させる上で重要と考え、令和3年第1回定例会において中間報告を行い、以後の課題と検討項目を整理した上で、議員間で十分な議論、討論、調査を行い、検証を行いました。

結果、この4年間の総括として「沼田町議会基本条例」を制定し、議会はその責任の認識と役割を果たすこととし、3月9日に行われた第1回定例会で最終報告を行いました。昨年の7月1日時点で144の町村議会のうち34議会が制定済みです。

## 沼田町議会基本条例

(前文)  
沼田町議会(以下「議会」という。)は、町民によって選ばれた議員で構成し、沼田町まちづくり基本条例(平成18年条例第8号)による議会の役割と責務に基づき、町の議決機関であることを認識して活動する。

また、議会は、政策の意思決定及び行政の監視の責任と役割を果たすことが使命であり、町民の意思を的確に把握し町政に反映していくことが責務である。

よって、議会は、「町民とつながる議会」を活動理念として、積極的な情報の公開と共有、活発な討議によって、町民の議会への関心をより一層高めていくこと、更に、自ら継続的に議会改革に取り組むことにより、議会の活性化を図り、町民の福祉の向上と町政の発展につなげることを決意し、この条例を制定する。

(目次)

- 第1章 総則 (第1条・第2条)
- 第2章 議会運営及び議員活動原則 (第3条・第4条)
- 第3章 町民との情報共有・町民参加の促進 (第5条・第6条)
- 第4章 議案及び政策の審議等 (第7条―第9条)
- 第5章 議会機能の充実強化 (第10条―第17条)
- 第6章 議員の定数・報酬・政治倫理 (第18条・第19条)
- 第7章 最高規範性及び見直し (第20条―第22条)

附則 この条例は、令和5年4月1日から施行する

## 議会モニター会議



予算内容の説明

3月22日に議会モニター会議が開催され、3名の参加がありました。

令和5年度の会計予算を中心に説明を行いました。町外から移住した人への商店街の紹介、再会の塔のような同窓会での取り組みと他町との比較、沼田町の仕事と雇用のマッチングなどの意見が出され議論を行いました。

# 予算等審査 特別委員会


3月10日～14日




委員長 久保元宏 副委員長 長野時敏

## 総括質問

### 住みたい田舎ランキング


 外部の評価だけではなく、住んでいる町民の満足度を上げるためにどのような予算を準備したのか。


 現状に甘んじることなく、小さな事業でも満足度を上げるつもりで実施して来たが、予算には限りがあるのでさらに精査したい。

3月9日に第1回定例会が開会し、令和5年度予算案が提出されました。

条例案、予算案が、予算等審査特別委員会に付託され、3日間にわたる審議を行いました。


総務財政課からの「地方財政対策のポイント」の説明後、各課の説明を受けて質疑を行いました。最終日に総括質問を行い審議の結果、条例4件、予算案9件に、意見を付して認定することを決定しました。


 不登校児童生徒がいることに対しての考えは。

 関係機関、専門家とも改めて検討、対応して行きたい。新たな留学制度の時代も近いと思うので考えたい。


教育長 担任の家庭訪問などを通し、それぞれの段階により対応を決めている。全体では数名の改善があり、中学3年生は高校を受験することができた。




 特産品の売り上げに繋がっているのか。


 数字で表すのは難しいが効果はあったと思う。過去2年間の取組み、委託業者との方

法を今後も検証して進めたい。

 SNSのハッシュタグの共通の使い方を整理して沼田町を発信しては。

 色々な手法を活用できるように対応の仕方を検討したい。


## 文化財収蔵センターへの資料移転

 収蔵品の移転時期と化石体験館との両立に無理はないのか。教育長 沼田ネズミイルカレプリカ2体目の完成に時間がかかり、遅れているが、




新復元  
新たに復元されたレプリカ

化石は2割が運搬済みで4月のオープンに合わせたい。

 昨年の予算委員会での確認は町民との約束であり、現状をどう考えるのか。教育長 レプリカ完成を最優先した結果、移転が遅れてしまった。

## そらち自然学校

 そらち自然学校は重用政策であり予算額も大きいが予算書の記載が不明瞭だ。ほたる学習館は直営だが、現状は委託事業とのすみ分けが分り



そらち自然学校開校式で紹介された3名のスタッフ



# 令和5年度



議員の質問に対し回答する横山町長

一般会計	51億0000万円
特別会計	20億5959万円
水道事業会計	2億3662万円
総額	73億9621万円



そらち自然学校の推進イメージの

自然学校の人件費は自ら稼ぎ運営して行く環境をつくるのが目標です。令和5年度は核となるほたる学習館の運営経費は町直営によって管理をします。

6月定例議会に向けて新しい目を考えるなど事務的整理を検討します。



ほたる館を主体域の展開で化石や自然学校を進めて行く考え方は無かったのか。



しっかりと連携を結んだ中でより効果が上がると環境を創って行きたいと思っています。



協力隊員が、本業の体験学習を提

供する環境に専念してもらう事を選択しました。3名とも卒業隊員ではないので、町の地域おこし協力隊員として委嘱をして運用の中で法人に委託します。

赤井課長

宿泊は1ヵ月5泊で1年間60泊と積算しています。貸出料は耐用年数、使用回数を計算して原価程度の価格を設定しています。貸出規約を最終調整し、各メニューを提示して行きます。

中の宿泊や貸し出しの積算を明らかにしてほしい。ワーケーション等の満足できるメニューの提示がなければ進まないのではないのか。

## ◆ 予算審査の結果 ◆

### (1) そらち自然学校の予算の明確化

そらち自然学校は町内外の新しい価値を創出する活動であるノマドビレッジを目指していますが、予算の標記が不明瞭なため、「稼ぐ力」への道筋が見えてきません。決算時にしっかりと評価や改善ができるよう、将来の黒字化の根拠を堅牢化した適切な取り組みを望みます。

また、町外のみならず町民全体を巻き込んだ波及効果を期待します。

### (2) 住みたいから「住んで良かった」まちづくりへ

住みたい田舎ベストランキング総合日本一は誇らしい結果ですが、住んで良かったと思えてこそ真の日本一といえます。さらに文化財収蔵センターの充実で郷土愛を育み、沼田町特産品販路拡大事業で町外にも広く必要とされる町となることで誇りを持つことができます。修正が必要な内容は整理して見直し、政策予算に向けて準備をしていただくよう望みます。

## 町民フォーラム

2月16日、ふれあいにおいて、町民フォーラムを開催しました。訪れた町民の皆さんに、これまでの委員会の活動を紹介しました。

- ・地球環境対策
- ・(総務民教建設常任委員会)
- ・地元加工品の開発と販売の促進
- ・(産業福祉常任委員会)



多くのご参加ありがとうございました

## 自治功労者表彰

3月9日、第1回定例会において上野敏夫議員、高田勲議員が全国町村議会議長会表彰15年以上で表彰されました。

定例会直前に本会議場にて、小峯議長により伝達されました。



受賞した上野議員と高田議員

## みんなの広場

### 3年ぶりの開催



輝け雪のまちフェスタ実行委員長 中村 俊光さん

輝け雪のまちフェスタ2023の実行委員長を務めさせていただきました、JA北いぶき青年部沼田支部支部長の中村俊光です。

はじめに輝け雪のまちフェスタにご来場いただきました皆様、そして多大なるご理解とご協力をいただきました、各関係機関・関係団体の皆様には雪フェスを開催した際には大変お世話になりましたことをこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

最初に輝け雪のまちフェスタについて説明させていただきますと、「沼田町には夏はあんどん祭りという大きなイベントがあるのに冬はなにもなくて寂しいよね」という言葉がきっかけで、沼田町役場青年女性部、農協青年部、商工会青年部の3団体が集まって企画・運営し、平成15年から始まって、今年で19回目の開催を迎えることができ、地域に根付いたイベントになってきたかと思えます。

そして今年の雪フェスについては新型コロナウイルスの影響で3年ぶりの開催となり、実行委員会の3年のブランク、町内でのインフルエンザウイルスの流行もあり、とても大きな不安があった中でイベントでしたが、当日は多数の町民の皆様にご来場いただき、盛況のうちにイベントを終えることができました。

来年度以降も今回の反省を活かし、よりよいイベントになるよう実行委員会一同がんばって参りますので、輝け雪のまちフェスタをよろしく願いいたします。



## あとがき

議会広報「みんなの議会」93号は、今期の広報特別委員会最後の発行になります。

出口の見えないコロナ禍で、議会の議事や活動状況をどのように皆様に伝えたらいいのか、読んでもらえる広報誌はどうあるべきか、試行錯誤の日々でした。

4年間、みんなの広場執筆者の方々をはじめ、多くの皆様に支えられ16回の発行に漕ぎつけたことに心よりお礼申し上げます。

次号からは、新しい広報特別委員会による「みんなの議会」が発行されます。ご期待ください。

### 広報特別委員

長野時敏 篠原 暁  
 上野敏夫 畑地 誉  
 伊藤 淳